

公益社団法人可児市シルバー人材センター
令和3年度事業実施報告

我が国の少子高齢化問題、特に高齢社会・超高齢社会を迎え、様々な問題が取りざたされています。中でも、社会保障制度と財政、高齢者のクオリティ・オブ・ライフの低下、働き続けたくても働けないことによる活躍意欲の低下や孤立感、経済力や健康に対しての不安など、そうした状況下、多様な働き方が選択出来るようシルバー人材センター事業に期待がかかっています。会員100万人を目標に会員増強に努力をしていますが、なかなか思うような結果がでませんでした。60歳台の入会が激減したのもこうした社会背景が原因と思われる。しかしながらコロナ禍の下にあっても、活動が制約される中、会員一丸となって組織的にそれぞれの担当部署で創意工夫を重ね努力をしてきました。その結果、契約金額にあっては微増ですがプラスに転じました。また、役員もセンターに係る問題点や、事業発展に寄与できるよう話し合いの場を分業制で行ってまいりました。なかなか進まぬ新事業や安全就業など「まずは、一歩ふみだす」を合言葉に実践してまいりました。また、就業情報など会報を通じ周知することも実施してまいりました。そうした活動の結果を各事業毎の実績を以下のとおり報告いたします。

令和3年度の事業実績は以下のとおりとなりました。

		前年比
1. 受託件数	3,815 件	(106.9%)
2. 契約金額	275,513,858 円	(102.8%)
3. 就業延人員	48,458 人日	(99.0%)
4. 会員数	847 名	(97.8%)

令和3年度の事業実施状況を報告します。

【事業体制】

- ① 本年度は、当初の計画のとおり、シルバー人材センター事業のあらゆる情報を共有できる体制整備と女性会員の増強及び、新規事業の拡充と開発を進めてまいりました。
- ・情報の共有 ホームページのバージョンアップ、会員専用ホームページを開設し、スマートフォン等により情報を閲覧できるよう整えました。
 - ・女性会員募集のリーフレットを新聞折込などPRに努めて参りました。その結果、昨年度、入会説明会参加者数、男性48名、女性30名、計78名のところ本年度は、男性39名、女性69名、計108名と、女性の参加者が2倍強、多くなりました。

・新規事業の開発について、事業委員会の中に各担当を置き、それぞれに効率よく研究及び創出が出来るよう体制を整えました。

② 労働者派遣事業

派遣事業においては、様々な社会情勢にあっても毎年、順調な推移を示しておりますが、まだシルバー人材センター派遣事業を利用していない企業が本来の「労働力不足を補う」人手不足の企業に対して、豊富な経験を持った高齢者の利用価値・必要性をアピールし認識してもらえることが重要と考えます。平成26年より7年経過した現在、シルバー人材センター派遣事業を利用している企業からは、「実直・真面目・丁寧」シルバー人材センター派遣会員の就業ぶりは好評価でありました。その結果、契約金額 64,200 千円（前年対比 128.8%）就業延人日 9,518 人日（前年対比 121.3%）

③ 介護保険事業

感染症力の強いオミクロン亜種の猛威に神経を使う毎日でしたが、県からの好意でPCR検査、ワクチンの優先接種などのおかげで、感染者を出すことなく介護保険事業を進めることができました。こうした経験を普段からあらゆる感染に備え、介護を必要とする方に接して行きたいと思います。本年度は、2年続くコロナ禍にも関わらず、実績を落とすことなく以下のような結果でありました。

訪問介護サービス	114 件、契約金額 2,568,962 円	延人員 173 人	延日数 978 日
総合事業	141 件、契約金額 2,128,192 円	延人員 162 人	延日数 694 日
介護（実費）	32 件、契約金額 135,095 円	延人員 35 人	延日数 80 日

④ 福祉有償運送事業

福祉有償運送事業は、介護保険事業所からの問い合わせが多くなりました。要介護者や障がい者のみの利用になり、シルバー人材センターでは、訪問介護・家事援助・移動困難者など、福祉全般にわたり地域に密着した活動をしていると多くの市民に認知されました。車両1台で、携わる会員も僅かな配分金ではありますが、「困っている方の力になれば」との思いで活動をしています。まさにシルバー人材センター事業の理念とマッチした、やりがいのある事業と言えるでしょう。昨年度と比較し契約額 139,950 円増、件数では 81 件増となり、以下のような結果となりました。

契約件数 813 件、契約金額 831,750 円、就業の時間 812.5 時間でした。

⑤ 指定管理

老人福祉センター可児川苑、やすらぎ館は、併設していたデイサービスが廃止されました。それに合わせ、浴室（風呂）も廃止されました。また、コロナ禍の影響で、2年連続の休館や催事の中止が相次ぎ、利用者の減少が続きました。半面、可児川苑がコロナワクチン接種会場となり、土日休日、夜間に、会場管理や消毒作業などの就

業を会員が行うこととなりました。

⑥ 各種事業

- ・農業事業 令和3年12月末をもって、地権者の売却により下恵土市民農園の返還、廃止となりました。現在、帷子市民農園・菅刈ごんぼのみの運営となりました。
- ・リサイクル事業 コロナ禍の影響で可児川苑の休館や感染対策にて見合わせ
- ・空き家対策事業 施設住宅課 空き家件数（自治会単位）情報提供協力
地域振興課 自治会情報の提供協力
自治会向け、空き家・空き地対策（見回り）事業のパンフレット作製
- ・パソコン・スマホ教室 実験的事業開始

⑦ 安全適正就業対策

安全委員会では、前年度と比較して物損事故が増加をしてきたため、対策を検討しました。特に事故発生件数の多い剪定・除草班に作業マニュアルを渡し、安全就業について周知し再確認を図りました。

また、「シルバーだより」などを活用して安全就業を広報、周知をしてきました。

⑧ ボランティア活動

今年度も、シルバー人材センター理念、「伝えよう地域の文化と伝統、さしのべよう福祉の手と心、守ろう、きれいな水と空気」こうした活動など、前年度を踏襲し実施計画を致しましたが、やはり新型コロナウイルス感染症により、相次いで中止となりました。

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事情報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。

令和3年5月31日

公益社団法人可児市シルバー人材センター